

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第3部門第3区分
【発行日】平成16年12月9日(2004.12.9)

【公表番号】特表2000-510182(P2000-510182A)

【公表日】平成12年8月8日(2000.8.8)

【出願番号】特願平9-540488

【国際特許分類第7版】

C 0 8 J 9/224

// C 0 8 L 25:06

【F I】

C 0 8 J 9/224 C E T

C 0 8 L 25:06

【手続補正書】

【提出日】平成16年4月7日(2004.4.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書



平成16年4月7日

特 許 庁 長 官 殿

1. 事件の表示

特願平09-540488号 <

2. 補正をする者

名 称 ビーエーエスエフ アクチェンゲゼルシャフト /

3. 代 理 人

住 所 東京都中央区京橋2丁目8番18号

昭和ビル (電話 3538-7746 代表)

氏 名 A035
(10035) 弁理士 江 藤 聡 明

査 査



4. 補正により増加する請求項の数 0

5. 補正対象書類名

請求の範囲

6. 補正対象項目名

請求の範囲

7. 補正の内容

1) 請求の範囲を別紙のとおり訂正する。



請求の範囲

1. 発泡剤を含有し、かつ10℃より高い温度で熔融する、100 μ m未満の平均粒度を有し、0.01から0.5重量%の疎水化剤と、シリカ微粉末とにより被覆されていることを特徴とする発泡性ポリスチレンビーズ。
2. 疎水化剤が、炭素鎖に10から30個の炭素原子を有するパラフィンワックスであることを特徴とする、請求項1の発泡性ポリスチレンビーズ。
3. 疎水化剤が、N-メチロールアミンと、脂肪酸誘導体との反応生成物であることを特徴とする、請求項1の発泡性ポリスチレンビーズ。
4. 疎水化剤が、ポリフルオロアルキル(メタ)アクリレートであることを特徴とする、請求項1の発泡性ポリスチレンビーズ。
5. コーティング中における疎水化剤対シリカの重量割合が5:95から50:50であることを特徴とする請求項1の発泡性ポリスチレンビーズ。
6. 疎水化剤の水性乳濁液でコーティングされていることを特徴とする、請求項1の発泡性ポリスチレンビーズ。
7. 発泡性ポリスチレンビーズを、10から80重量%の疎水化剤を含有する水性乳濁液で処理することを特徴とする、請求項1の発泡性ポリスチレンビーズの製造方法。
8. 水性乳濁液が、追加的に乳化剤および／または可溶化剤を含有することを特徴とする、請求項7の方法。
9. 疎水化剤の他に、難燃化剤および／または集塊化防止剤および／または離型時間短縮剤を、発泡性ポリスチレンビーズに施すことを特徴とする、請求項7の方法。
10. 上記処理が噴霧及びドラムコーティングにより行われることを特徴とする、請求項7の方法。
11. 疎水化剤の水性乳濁液をシリカ微粉末に吸収させ、得られる粉末混合物で、発泡性ポリスチレンビーズをコーティングすることを特徴とする、請求項7の方法。
12. 疎水化剤をシリカ微粉末に吸着させ、これにより発泡性ポリスチレンビ

ーズをコーティングすることを特徴とする、請求項1の発泡性ポリスチレンビーズの製造方法。

13. 水性懸濁液中におけるスチレンの重合により発泡性ポリスチレンビーズを製造する間に疎水化剤を添加することを特徴とする、請求項1の発泡性ポリスチレンビーズの製造方法。

14. 請求項1に記載の0.01から0.5重量%の疎水化剤と、シリカ微粉末とにより被覆されていることを特徴とする発泡ポリスチレンビーズ。

15. 請求項1に記載の被覆発泡性ポリスチレンビーズを発泡させることを特徴とする発泡ポリスチレンビーズの製造方法。

16. 発泡ポリスチレンビーズを、請求項1に記載の0.01から0.5重量%の疎水化剤と、シリカ微粉末とにより被覆することを特徴とする発泡ポリスチレンビーズの製造方法。

17. 請求項14に記載の発泡ポリスチレンビーズの、屋根断熱材料、周囲断熱板体、浮子または水分に敏感な包装材料のための用途。